

< 記入上の注意 >

1. 履歴書について

- 1) 年は西暦とし、和暦を（ ）で記入して下さい。
- 2) 「学歴」の欄には、高等学校卒業以降の学歴を記入して下さい。
- 3) 「免許・資格」の欄には、医師免許・各種認定資格等を記入して下さい。
- 4) 「学位」の欄については学位名・取得大学名・学位番号及び取得年月日を、称号記を見て記入してください。
- 5) 「所属学会・協会名等」の欄には、加入学会名及び役職名（理事・評議員・監事等）のほか、官公庁から委託された委員会名及び役職名、民間団体から委託された職名を記入して下さい。
- 6) 「賞罰」の欄には、学術に関する受賞は必ず記入し、その他の表彰についても記入して下さい。
- 7) 「職歴」の欄には、大学卒業以後の職業歴を順次記入して下さい。
- 8) 「研究歴」の欄には、研究機関と研究課題（海外留学、国内留学を含む。）を記入して下さい。

2. 教育・研究・診療(臨床系)に対する抱負及び自己評価について（学内講師以上）

教育・研究及び診療について、項目を分けて記入して下さい。最後に今までの自分の教育・研究及び診療に対する自己評価を記入して下さい。（字数は全体で2,000字程度とします。）

※臨床系教員については、別に「活動状況について」を提出して下さい。

3. 教育研究業績書について

別紙の「教育研究業績書の記載要領」に従って下さい。

4. その他

- 1) 用紙が不足する場合は、同じ様式の内紙（コピー可）を補充して記入して下さい。あるいは、はじめから指定様式に準じて作成いただいても結構です。

以 上

履 歴 書

(令和 年 月 日現在)

(教-A)

ふりがな	どっきょう たろう		旧 姓	性別	
氏 名	獨 協 太 郎 印			男・女	
生年月日	1955 (昭・平 30) 年 5 月 1 日 (満 〇〇歳)				
現住所	〒〇〇〇-〇〇〇〇 TEL 03 (1234) 5678 〇〇市〇〇町1-2 〇〇マンション〇〇〇号室				
令和 年 月 撮影					
学 歴 (高 校 から 記 入 す る 事)					
学 校 名 及 び 学 部 学 科 名	在 学 期 間			卒 業 ・ 修 了 ・ 中 退 の 区 分	
〇〇県立〇〇高等学校	19〇〇 (昭・平・令 〇〇)年 〇月から 19〇〇 (昭・平・令 〇〇)年 〇月まで			卒 業	
〇〇大学〇学部〇〇学科	19〇〇 (昭・平・令 〇〇)年 〇月から 19〇〇 (昭・平・令 〇〇)年 〇月まで			卒 業	
〇〇大学大学院〇〇研究科修士課程	19〇〇 (昭・平・令 〇〇)年 〇月から 19〇〇 (昭・平・令 〇〇)年 〇月まで			修 了	
同 上 博士課程	19〇〇 (昭・平・令 〇〇)年 〇月から 19〇〇 (昭・平・令 〇〇)年 〇月まで			修 了	
	(昭・平・令 〇〇)年 〇月から (昭・平・令 〇〇)年 〇月まで				
免 許 ・ 資 格					
名 称	登 録 番 号	取 得 年 月 日		取 得 機 関 名	
医師免許証	〇〇〇〇〇〇	19〇〇 (昭・平・令 〇〇)年 〇月 〇日		厚 生 省 ※厚生大臣ではない	
〇〇認定医	〇〇〇〇	19〇〇 (昭・平・令 〇〇)年 〇月 〇日		〇〇学会 ※学会長ではない	
〇〇専門医	〇〇〇〇	19〇〇 (昭・平・令 〇〇)年 〇月 〇日			
〇〇指導医	〇〇〇〇	19〇〇 (昭・平・令 〇〇)年 〇月 〇日			
学 位					
種 類	取 得 大 学 名 (記 号)		取 得 年 月 日		
博士(医学)	〇〇医科大学(甲〇〇号)		19〇〇 年 月 日 (昭・平・令〇〇年)		
※学位の称号記を見て記入のこと			※授与されていない場合は日付の後に(取得予定)と記入のこと		
所 属 学 会 ・ 協 会 名 等					
会 名	役 職 名		備 考		
日本〇〇学会	理 事				
関東〇〇学会	評 議 員				
国際〇〇学会					
			※会員は役職名は記入しない		
賞 罰					
年 月 日	種 類				
19〇〇 年 月 日 (昭・平・令 〇〇年)	〇〇学会学術奨励賞				
年 月 日 (昭・平・令 年)	※記載すべき内容がない場合は「なし」と記入のこと				

注. 必ず黒インクを使用のこと

職		歴		任 命 者		
1980 (昭・平・令 55)年	5月 1日から	獨協医科大学病院・臨床研修医 (〇〇科)		学 長		
1982 (昭・平・令 57)年	3月 31日まで					
1981 (昭・平・令 56)年	5月 1日から	東京都立〇〇病院・医員 (〇〇科)		都 知 事		
1981 (昭・平・令 56)年	8月 31日まで					
1986 (昭・平・令 61)年	4月 1日から	獨協医科大学病院・臨床助手 (〇〇学)		学 長		
1991 (昭・平・令 3)年	6月 30日まで					
1987 (昭・平・令 62)年	1月 1日から	学外派遣 (〇〇病院)		学 長		
1987 (昭・平・令 62)年	12月 31日まで					
1991 (昭・平・令 3)年	7月 1日から	〇〇医科大学・助手 (〇〇学)		学 部 長		
1995 (昭・平・令 7)年	3月 31日まで					
1995 (昭・平・令 7)年	4月 1日から	〇〇大学医学部・講師 (〇〇学)		学 長		
1999 (昭・平・令 11)年	3月 31日まで					
1996 (昭・平・令 8)年	5月 15日から	海外留学 (米国・〇〇大学〇〇研究所)		学 長		
1997 (昭・平・令 9)年	5月 14日まで					
1999 (昭・平・令 11)年	4月 1日から	〇〇病院・内科部長		病 院 長		
(昭・平・令)年	現在 まで					
1999 (昭・平・令 11)年	4月 1日から	〇〇医科大学・非常勤講師 (〇〇学)		学 長		
(昭・平・令)年	現在 まで					
(昭・平・令)年	月 日から			※機関によって違いが		
(昭・平・令)年	月 日まで			あります。		
(昭・平・令)年	月 日から					
(昭・平・令)年	月 日まで					
(昭・平・令)年	月 日から					
(昭・平・令)年	月 日まで					
(昭・平・令)年	月 日から					
(昭・平・令)年	月 日まで					
研 究		歴		所 属 機 関		
(昭・平・令)年	月 日から	※職歴にあるものは除きます				
(昭・平・令)年	月 日まで					
(昭・平・令)年	月 日から					
(昭・平・令)年	月 日まで					
(昭・平・令)年	月 日から					
(昭・平・令)年	月 日まで					
(昭・平・令)年	月 日から					
(昭・平・令)年	月 日まで					
補 助 金 等						
年 月		名称及び研究内容				
20〇〇 年	〇〇月	科学研究費 奨励研究(A)・研究代表者 〇〇〇万円(総額)				
(昭・平・令 〇〇年)		「〇〇に関する研究」				
20〇〇 年	〇〇月	日本医療研究開発機構(AMED)・分担 〇〇〇万円(分担金)				
(昭・平・令 〇〇年)		「□□に関する研究」(研究代表者 △△大学 ◇◇ ◇◇)				
年	月	※件数が多い場合等は代表的な内容について記入のこと				
(昭・平・令 年)						
年	月					
(昭・平・令 年)						
家 族 欄						
住 所			TEL ()			
氏 名		本人との続柄	生 年 月 日	扶養義務	勤務先名(名称・役職名)または通学校名・学年	同居別居
			・	有 無		同 別
			・	有 無		同 別
			・	有 無		同 別
			・	有 無		同 別
備 考						

< 業績目録の記載要領 >

- 1) 【学位論文】 修士論文がある場合にはそれも記載する。
- 2) 研究業績は、【著書】、【原著】、【症例報告】、【総説】、【その他】【学会発表】に区分し、それぞれ発表年代順に一連番号を付し、欧文・和文ごとにまとめて下さい。
- 3) 【著書】 著者名（共著の場合は全員を記載し、応募者氏名にアンダーラインを付すこと）、書名、出版社名、出版地、発行年の順に記載する。分担執筆の場合は、著者名（共著の場合は全員を記載し、応募者氏名にアンダーラインを付すこと）、分担項目名、書名（同名の書で複数の版が出版されている場合は何版かも記す）、編者名、執筆箇所の頁（頁～頁）出版社名、出版地、発行年の順に記載する。
- 4) 【原著】 査読者を介して受理された論文のみとし、投稿中のものは記載しないで下さい。著者名（全員を発表通りに記載し、応募者氏名にアンダーラインを付すこと）題名、誌名、巻、頁～頁、発行年の順に記載する。
なお、印刷中のものを記載する場合は、別に掲載証明書を添付して下さい。
学会抄録集や Proceedings 等に発表した Abstracts は学会発表に記載して下さい。
シンポジウムの記録を単行本にまとめたものは、総説または著書に記載して下さい。
雑誌略名は原則として INDEX MEDICUS 及び医学中央雑誌収載誌目録に従って下さい。
- 5) 【症例報告】、【総説】 の記載方法は原著に準ずる。
- 6) 【その他】 商業誌などに執筆した解説、一般に配布されていない出版物に執筆したもの、班研究の報告書、翻訳、一般向け解説文等、上記の学術論文に該当しないものを記載する。
- 7) 【学会発表】 最近5年間の国際学会での発表を、特別講演・シンポジウム・一般演題・症例報告に分け、発表年代順に記載する。国内学会での発表は最近5年間のものから、特に重要と思うものを記載する。

以 上

業 績 目 録 (記載例)

令和 年 月 日現在
氏 名 獨協 太郎

【学位論文】

Dokkyo T :Clinical evaluation of ○○○○. Am J Hypertension 35:1-8, 2000.

獨協太郎 : ○○○○の臨床的研究.学位総説論文 (Thesis) 1-78, 1995.

【著 書】

欧文

1. Dokkyo T, Mibu I: Textbook of ○○○, Elsevier, New York, 1990.

2. Kitakobayashi S, Dokkyo T, Mibu I: Endocrinological disorder of ○○○, In: Essential Endocrinology of ○○○○. Ed. by Tochigi J and Kanto H, 3rd. Blackwell Scientific, Oxford, pp520-590, 1998.

※欧文の論文名・学会発表名は最初の書き出しのみ大文字とし、以降は小文字に統一する。

和文

1. 獨協太郎, 北小林三郎 : 現代の○○○医学. 丸善, 東京, 247-258, 1995.

2. 壬生一郎, 獨協太郎, 北小林三郎 : ○○○○についての臨床的検討. 栃木次郎, 関東八郎編, 新しい○○○医学 医学書院, 東京, pp231-300, 1999.

【原 著】

欧文

1. Dokkyo T, Mibu I: Regulation by GH releasing hormone ○○○○○○. Endocrinology 135: 5000-5012, 1996.

2. Kitakobayashi S, Dokkyo T: Ionic mechanism of the rise in ○○○○○○. J Neuroendocrinol 11: 790-796, 1999.

和文

1. 壬生一郎, 獨協太郎: シナプスの可塑性と○○○. 神経化学 36: 39-44, 1997.

2. 獨協太郎, 北小林三郎: ヒトがんにおける○○○. 生化学 70: 311-323, 1998.

【症例報告】: 原著に準ずる

欧文

1. Dokkyo T, Mibu I: A case of ○○○○○○. Adv Clin Neurosci 100:56-59, 1998.

和文

1. 獨協太郎, 北小林三郎: 先天性○○異常の症例研究. 日内会雑誌 88:111-115, 1999.

【総 説】

欧文

1. Kitakobayashi S, Dokkyo T, Mibu I: Monoamine oxidase: the developmental ○○○○○○. Annu Rev Neurosci 18:167-197, 1995.

和文

1. 獨協太郎, 壬生一郎, 北小林三郎: 中枢神経系における○○○○.蛋白質 核酸 酵素 43: 769-775, 1998.
2. 壬生一郎, 北小林三郎, 獨協太郎: アポトーシスによる○○○○.日本臨床 57: 2975-2981, 1999.

【その他】

欧文

1. Dokkyo T, Mibu I: Excitatory and inhibitory amino acid ○○○○○. Proceeding of the 10th International Symposium ○○○, Amsterdam, The Netherland, August 12-18, 1998. "In Hypothalamic Integration of ○○○○" (ed. Hoffman MW and Tochigi J) Elsevier, Amsterdam, Progress in Brain Research 121:89-95, 1998.
2. Dokkyo T: Situation of science in developing countries. Science 290:995, 1998.
3. Dokkyo T: Book review "Experiments in Clinical ○○○○○, Keller RV" Nature 400: 210, 1999.

和文

1. 獨協太郎: 私はなぜ現在の科目を選んだか.日本医事新報 No.3391,p120, 1997.
2. 獨協太郎: ○○の遺伝子診断.今日の治療指針 第11版 医学書院, pp112-113, 1998.
3. 獨協太郎: 中枢神経系における○○. 厚生省厚生科学研究費補助金「長寿科学総合研究」平成9年度研究報告 Vol 2・老年病総論 pp311-322, 1998.

【学会発表】

国際学会

特別講演

1. Dokkyo T, Mibu I: Plenary lecture: Regulatory mechanism of ○○○○○. The 3rd International Congress of ○○○○○, Tokyo, 1999, 8.

シンポジウム

1. Kitakobayashi S, Dokkyo T: Molecular mechanism of ○○○○. Symposium 5 Neurosecretion and its regulation, 5th IBRO World Congress of Neuroscience Jerusalem, 1999,7.

一般演題

1. Dokkyo T, Mibu I: Increased hypothalamic 5-HT response ○○○○. Society for Neuroscience 30th Annual Meeting, New Orleans, 2000, 11.

国内学会

特別講演

1. 獨協太郎: ○○の中枢調節機構. 第75回日本内分泌学会学術総会, 大阪, 2002, 10.

シンポジウム

1. 獨協太郎: 食欲の分子機構: 視床下部のレプチン作用の分子機構. 第45回日本神経科学学会, 札幌, 2002, 10.